

排出ガス浄化性能の維持のために

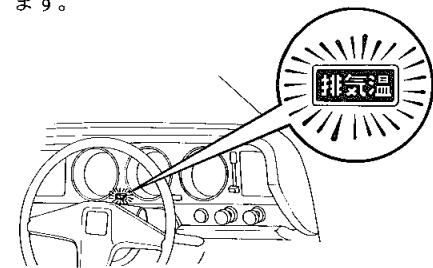
★ガソリンを補給するときは

必ず無鉛レギュラー・ガソリンを補給しましょう。



★排気温警告灯が点灯したときは

触媒装置の温度が高くなったことを示します。



このままで運転を続けると触媒装置の浄化性能を損う恐れがありますので必ず次の処置をしてください。

1. 走行中は速度を落してください。
警告灯が点灯したときの、半分程度に速度を落して走行してください。
普通は数分内に消灯します。

2. 停車中は、エンジンを止めて冷却するまで放置してください。冷却した後は再びエンジン・キーをONにしても点灯しません。

警告灯が消灯した場合はもとのように走行できます。たびたび点灯する場合は、そのまま使用せず、サービス工場で点検整備を受けてください。

★バッテリー上がりのときは

長坂路で車を押ししたり、けん引によるエンジン始動はやめましょう。プースターケーブルを使用して他車のバッテリーを借りるか充電をしてから始動してください。

これだけはぜひ！
守りましょう！

安全運転のために

★正しいドライビング・ポジションは

急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。

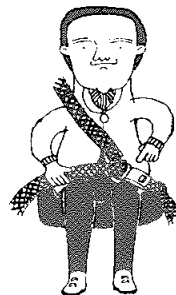
また前後の視界が十分確保でき、長距離運転にも疲れない姿勢であることも大切です。
(シートの調整の項目参照)



ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。

★シート・ベルトは

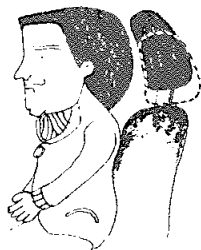
必ず装着して運転しましょう。
腰ベルトは腰骨の位置にぴったりと装着しましょう。
(シート・ベルトを忘れずにの項目参照)



腹の位置にかけると方一のとき体にくい込み危険です。

★ヘッド・レストの位置は

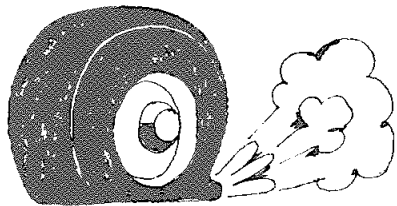
ヘッド・レストの間はにぎりこぶしの幅以上あげないようにしましょう。



正しい位置にしないと危険防止に役立ちません。

★タイヤは

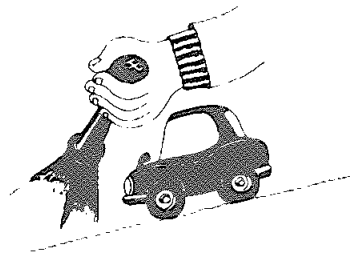
1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。
(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えましょう。
(タイヤの溝の深さの項目参照)



走行中、パンクやバーストを起こしやすくなり危険です。

★長い坂道を下る場合は

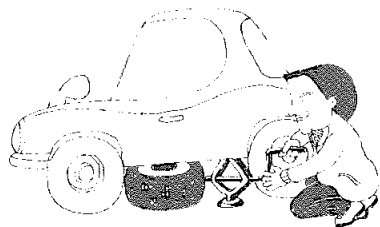
エンジン・ブレーキを活用しましょう。
(ブレーキ、クラッチの使いかたの項目参照)



フット・ブレーキを踏み続けるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

★ジャッキを使用するときは

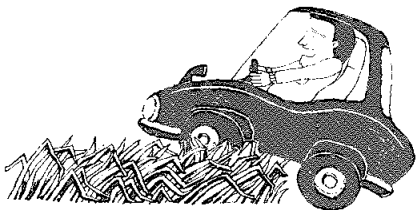
所定の位置に確実にセットしましょう。
輪止め、パーキング・ブレーキを忘れずに。
(パンクの処置の項目参照)



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

★駐停車するときは

1. 枯草など燃えやすいものの付近や上に車を乗り入れたり、駐停車しないでください。



排気管付近はかなり高い温度になるので、万一の場合枯草などに着火する危険があります。

★注意

やむを得ず枯草などの中に入り込んで、駐停車する場合は

- (1) エンジンを必ず止めてください。
- (2) 走行する前に枯草などの可燃物が、排気管に巻き付いたりしていないか点検してください。
2. 密閉した車庫内などで、エンジンをかけたままにしないでください。

★走行中エンジン・スイッチを切らないでください。

1. ブレーキ・ブースタが作用しないのでブレーキの効が悪くなります。
2. パワー・ステアリング付き車はハンドル操作が重くなります。
3. 触媒装置に損傷を与えることがあります。

★エンジンを停止する場合は

空ふかし直後にはエンジン・スイッチを切らないでアイドリング状態でエンジン・スイッチを切ってください。

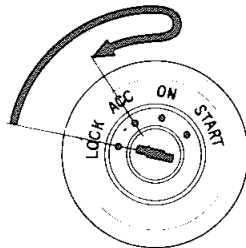
★注意

空ふかしはやめましょう。人に迷惑をかけるためにも良くありません。

★エンジンを停止して移動する場合は

(けん引される場合など)

1. エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。
(エンジン・スイッチの項目参照)



走行中はキーを絶対にロックの位置に回さないでください。
危険です。

2. ブレーキ・ブースターは作動しませんので通常より大きな踏力が必要です。

★適切な暖機運転をしましょう。

エンジンが冷えているときは出力の低下、走行性能の悪化など、車本来の性能が十分に発揮できません。

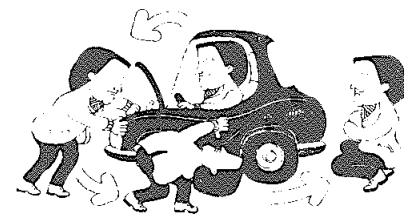
暖機方法は必ず“エンジンを始動するには”の項を参照してください。

★注意

暖機運転のときエンジンを高回転のまま10分以上放置しないでください。

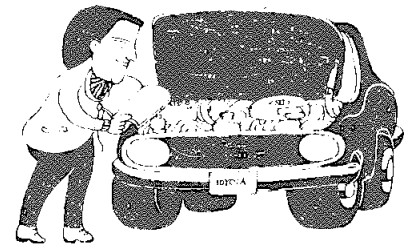
★作業点検は

故障を未然に防ぐため、必ず行ないましょう。
(作業点検の項目参照)



★定期点検は

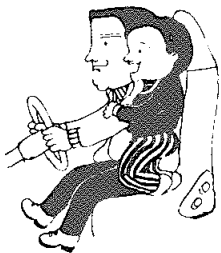
法令でも定められていますので整備手帳に基づいて必ず行ないましょう。



車の性能を維持するために大切なことです。

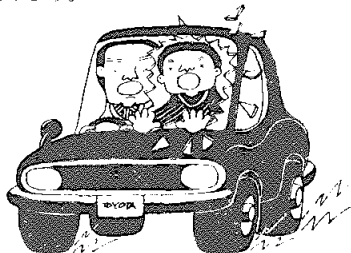
お子様を乗せる ときは

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シート
にすわらせましょう。

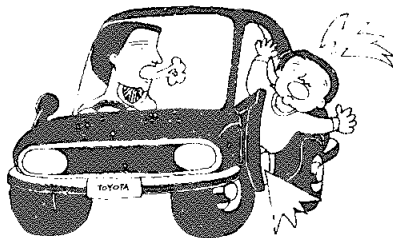


助手席ではドライ
バーのじゃまにな
ります。

万一のとき放り
出される心配が
あります。



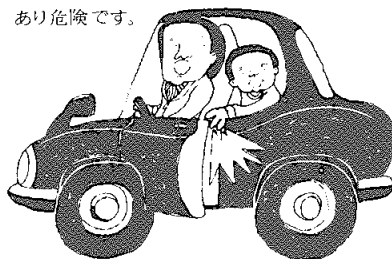
★ドアのロックを確実にしましょう。



ロックをすれば、ドア・インサイド・ハンドル
をいじっても、ドアは開きません。

★必ずおとながドアの開閉をしましょう。

お子様が手を
はさむ場合が
あり危険です。



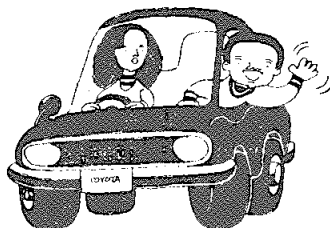
★車から離れるときは、お子様と一緒に
連れて行きましょう。



室内にお子様を残しておくと思いがけ
ない事故が起きる場合があります。

★窓から顔や手などを出させないように
しましょう。

思いがけないケガをすることがあります。

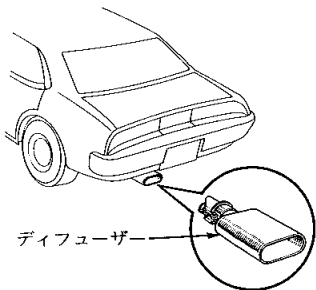


対向車や、後続車に迷惑をかけ、また
マナー違反です。

故障を防ぐために

★排気管出口についているディフューザーについて

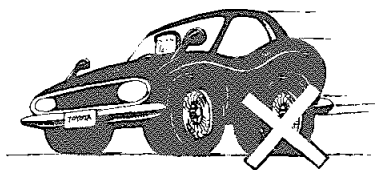
ディフューザーは排気ガスの温度を下げるためのものですから、取りはずしたり改造しないでください。またディフューザーが損傷した場合は、サービス工場整備を受けてください。



★車に装着する部品は

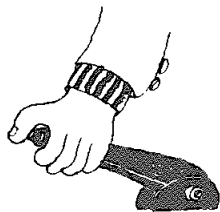
車の構造に適した純正部品を使用しましょう。

特に車の走行に関連するところにはメーカーが運輸省に届出をした指定の部品以外は使用しないでください。



車の性能や機能に適さない部品を装着すると、思いがけない事故が発生する場合があります。

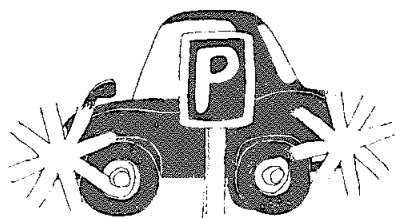
★パーキング・ブレーキ・レバーは走行する前に必ず確実にもとの位置までもどし、ブレーキ・ウォーニング・ランプが消灯するのを確かめましょう。(パーキング・ブレーキ・レバーの項目参照)



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

★バッテリーは

完全充電でもエンジンを停止してランプ類を使用すると消耗が激しいものです。



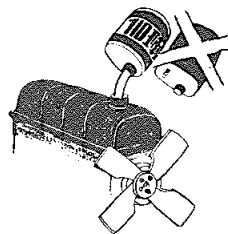
バッテリーが上がるとエンジン始動ができなくなることがあります。

★エンジン・オイルの補給は

同品質のオイルを使用しましょう。

なお、エンジン・オイル添加剤を使用するときは、トヨタの推奨する添加剤を使用しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)



質の異なったオイルやエンジン・オイル添加剤を使用すると性能が低下する恐れがあります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給するときは

同品質、同銘柄のフルードを必ず使いましょう。なお、タンク内にゴミがはいらないように十分注意しましょう。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

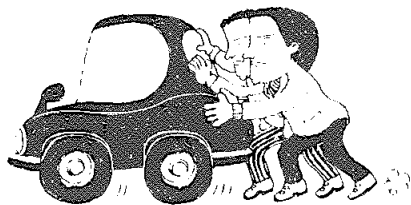


ゴミがはいるとブレーキが効かなくなったり、クラッチが切れなくなることがあります。

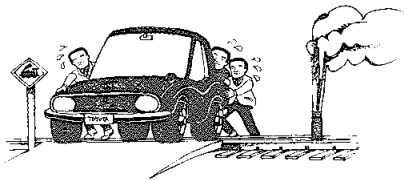
万一のときは——

★エンストして始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. マニュアル・トランスミッション車の場合、急を要するときはスターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターを回します。
このときクラッチから足を離しておきます。また平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。
3. 踏み切りなどで動かなくなったり、電車が来そうになったら保安炎筒で合図してください。



★高速走行中、パンクやバースト（タイ

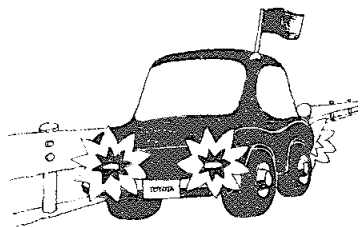
ヤの空気が急に抜けること）したとき。

ハンドルをしっかりとって急ブレーキは踏まないようにしましょう。

急ブレーキを踏むとハンドルを強くとられ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、または故障車とわかるように赤旗などを目につくよう表示します。



★遠出して故障し、なおせないときは

整備手帳のサービス網をご覧になって、最寄りの取り扱い店へ連絡しましょう。